

会員便り

私の読書

よもやま

福重康弘

私が多少は本を読むようになったのは職場の先輩の影響が多分にある。

本のエピソード
【犯人が分からない推理小説の話】

ドラマでも、小説でも殺人事件の犯人は最後には判明する。ところが読み終わっても犯人が分からない本がある。それが東野圭吾の小説「私が彼を殺した」だ。話の筋はこうだ。映画プロデューサーの男が殺された。容疑者は三人。そしていよいよクライマックス。刑事が容疑者三人と関係



OB会事務所にて

者を集めて謎を解いていく。最後にこう言うて終わる「犯人はあなただです」。私は思わず「エー。犯人が分からない」と叫んだ。だが犯人かは読者が推理しろということ。別冊で推理の手引きがあるんですが4、5回読み直したが今も分からない。

ここで読者にお願いです。どなたかこの本に興味がある方、すでに読んで犯人がお分かりの方はぜひ教えてくださいます。

【博多から福島に戻る新幹線に本を忘れた話】

「あついけね！」のぞみ”に本忘れた”と気づいたのは、福島行き新幹線”やまびこ”が東京駅を出た直後だった。東京での乗り換え時間が八分しかないもので”のぞみ”の降車の前にトイレ。座席に戻って旅行バッグだけ持って降車出口へ。本は座席に置き去り。この本は浅田次郎の「中原の

虹」。中国の清の末期の話。四巻一セットの第三巻目。まだ読み終わってなく、クライマックス前の話がとんでしまった。その後本屋古本屋を何軒か回ったけど見つかりません。

ここで読者にお願いです。どなたかこの本をお持ちの方がいらしやったら是非お貸しくださいませ。

【少しは仕事に役に立ったかなの話】

私が在籍していた証券部の業務に不良の未然防止、再発防止のための品質活動がある。そのためには不良の真の原因を把握することが不可欠。考え方のヒントになった本がある。それが内田康夫の「浅見光彦の推理小説シリーズ」である。主人公は浅見光彦という旅行のルポライター。殺人事件に巻き込まれ推理を重ね事件を解決していく。推理の基本は、『見えている事象の奥に眼を向けよ』である。今見えている事象だけで判断するな。

定年後の馬鹿げた行動

丸岩 真

【真実は、見えている事象の奥にある】。私はずっと思考の糧としていた。

定年を迎えてから早十三年を迎えましたが色々な事がありました。特に東日本大震災は被害の大きかった南相馬に住んでいたこともあり、大きな印象が残っております。

只、今回キビタキに書くのは自分の定年後の楽しく馬鹿げた行動を書いてみたいと思います。
①車で日本を走り回った事です。定年後直ぐ自動車を購入し現在二台目ですが、一台目の走行距離は三十一万キロ、二台目は十七万



愛車の前で！！

キロ、合わせて四八万キロで地球を十二周した事になります。回った都道府県と言うより、回らなかった所は北海道と沖縄だけ。

北海道は昨年予定していましたがコロナとかみさんの他界で断念しました。今は一人でも回ってやろうと企んでおります。

②日帰り温泉の旅で、前記の旅行でも各地の温泉には入りましたが、日帰りではありません。南相馬を起点に行った所では北は青森県酸ヶ湯、南？では群馬県草津温泉でした。
両地とも退職前に初めて行きましたが、退職後も行ってきました。特に退職後の酸ヶ湯

行きは1m程の積雪を記録とニュースで知り、翌日”雪見ツアー”と洒落込んで青森まで行ったが麓でも豪雪で、仕方なくウターン、東北道は通行止めになり秋田経由で国道を戻りましたが八郎潟付近は10m先も見えない地吹雪で秋田で一泊。

③味噌作りです。定年後雑誌に味噌作りの講習会の案内を見て早速山形で受講しました。出来上がった味噌が美味でそれ以来毎年作っております。

五年程前、味噌蔵にしている実家の帰り保原の時政さん、照井さん宅に寄りお裾分けをしました。その後両氏とも相次いで他界。とんでもない事になったと当時は思いましたが、今思うと兄弟従妹とも毎年食べてもらっていて健康です。安心しております。
以上、①②③とも書くこと沢山ありますが次の機会に。
ではでは